

# 我が国のBSE感染状況の評価

(平成25年度レギュラトリ－サイエンス新技術開発事業成果)

## 1. シミュレーションモデルによる推定

### (1) 目的・方法

- ① 動物衛生研究所の開発したシミュレーションモデルにより、1995年から2001年までの7年間（飼料規制が行われておらずBSE感染の可能性が存在した期間）に生まれた牛のBSE感染頭数※を推定
- ② ①で推定した感染牛がいつまで生存するかを推定

※ これまでに日本では36頭の陽性牛が摘発されているが、

- ① BSEに感染していても摘発可能月齢に達するまでに死亡する（と畜される）牛が存在すること
  - ② BSE発生前は大規模なサーベイランスが実施されていなかったこと
- 等の理由により、我が国のBSE感染牛頭数は、より多かったと考えられる。

### (2) 結果

これらの感染牛は乳用牛、肉用牛ともに2010年には全て死亡したと推定

→ 日本にBSE感染牛が残っている可能性は極めて低い

## 2. BSurvEモデルによる推定

### (1) 目的・方法

英国中央研究所等が開発したモデルにより、健康と畜牛、緊急と畜牛、死亡牛、臨床症状疑い牛の検査データから、誕生年毎のBSE感染牛数や、現存牛中の感染牛頭数を推定。

### (2) 結果

2012年時点で生存している2歳以上の牛のBSE感染牛の最尤推定値（最ももらしい値）は、1万頭当たり0頭。